



学校通信

令和8年 2月27日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(第11号)

「頑張りの重さに釣り合う分銅とは」

校長 竹内 大吾

全国各地で、春一番が到来し、春の訪れを感じられる季節になりました。いよいよ、令和7年度も、まとめの時期になってまいりました。

今年度の学校経営計画では、目指す学校として「自立と自律を目指して～ 一人一人の可能性を引き出し、目標に向かって主体的に行動する力を高める学校～」を掲げました。全校朝礼でも、子供たちに対しては、自分なりの目標をもち、頑張ることの大切さについて一年間をとおして、伝えてきました。成長するペースは、それぞれ異なっても、どの子供たちも、前に向かって、着実に成長してきたと思います。

さて、もし子供たちの成長や頑張りを測ることができる秤（はかり）があるとしたら、それは数字で表してくれるデジタルの秤ではなく、分銅と釣り合わせて目盛りを合わせる上皿天秤（うわざらてんびん）のようなものではないでしょうか。

子供たちの一年間の成長の度合いは、結果だけをもって数値化して測るようなものではありません。何かができるようになったことの重さは、できるようになるまでの子供自身の頑張りの過程の重さと、釣り合わせて測ることができるものだと思います。

さらに、私たち大人は、子供たちが何かをできるようになった際に、それに見合う重さの分銅に見合った賞賛や価値付けをしてあげることが大事です。

もし、子供たちが既にほとんどできていることに対して、過度の賞賛をした場合、または、とても努力したにもかかわらず、ほとんど賞賛しなかった場合、それは、釣り合わない重さにならないでしょうか。釣り合わない重さの賞賛は、子供たちの、褒められること、認められることの自己肯定感を、違った方向へと導きかねません。秤でいうと目盛りがずれてしまうことになるのです。

私たち大人が、子供の心の中の上皿天秤に、賞賛という正しく釣り合う分銅を置いていくことで、その目盛りの精度は増していき、将来的には、子供が物事を達成した際に、自分自身で、自己評価・自己肯定感という分銅を置けるようになり、次の目標をたてたり、引き続き頑張ったり取り組んだりすることができるのです。

今年度も、ちょうど残すところ、約一ヶ月となりました。一年のまとめとして、私たち教員も、保護者の方々も、子供たちの成長の重さに見合った賞賛の分銅を置いていければと思います。

「幼稚部 親子リトミック」

2月5日、「子どもの城合唱団」の高谷温子先生、林あづさ先生を講師にお招きし、親子リトミックを実施しました。在籍幼児親子と乳幼児教育相談親子が参加し、ピアノの音や歌に合わせて体を動かしました。

みんなで手をつないで大きくジャンプしたり、歌に合わせてカスタネットやタンブリンなどの楽器を鳴らしたりしました。最初は少し緊張した様子の子供たちでしたが、すぐに笑顔になり、最後には大きな笑い声をあげながら、楽しく活動しました。あっという間の1時間。とても素敵な思い出ができました。

(文責：林 鈴夏)